

令和6年度 津山市立高野小学校 学校評価書(別紙)

( A:目標を上回った B:ほぼ目標どおり C:目標を下回った)

学校経営目標等	具体的計画	今年度の達成基準	自己評価(中間)		自己評価(最終)		分析・改善方策	学校関係者評価
			状況	評価	達成状況	評価		
【学力向上】 授業が楽しいと言っている子 【落ち着いた学習環境の整備】	①「学びのサイクル」を達成するため、1単位時間の授業で教師のねらいや意図しやりきる。 ○授業タイムマネジメントを徹底する。「めあて～振り返り」を必ず行い、スピード感とテンポの良い授業を重視する。 ○導入や教材の工夫を行い、児童がやってみよう、学ぶ見通しのある授業づくりを行う。 ○岡山大学の中山准教授提唱の「ギミックブラッシュアップシート」等を活用し、指導案の中に感情曲線を用いた、授業検証を行う。 ②基礎学力を確実に定着する取組を行う。 ・音読 ・MIM、よむYOMUワーク ・単元テスト、全国や県の学力調査問題の活用 ○全学級で、音読の宿題に取り組む。 音読教材を使用し、朝学習→授業→家庭学習と繰り返し指導する。 ○週末課題で学力調査の過去問題等の読解問題に取り組む、課題のある問題への習熟を図る。 ○タブレットの持ち帰りを行い、「navima」やNHKforスクール等を活用し、基礎力の定着や自主学習に取り組む。	<評価指標> 【教師アンケートで80%以上】 【子どものアンケートで「授業が楽しい」を90%以上】	<教師アンケート> ◇「1時間の授業を「振り返り」まで行っているか」(7月末) 3年:90% 4年:ほぼ100% 5年:20% 6年50% □「中学年は授業タイムマネジメントを実行。高学年で「めあて」や応題までで時間切れとなった状況。 <児童アンケート> □「授業が楽しい」84%。「チャイムスタートができる」88% ○「全学級で共通した指導事項 ・返事、挙手をシビアに徹底(「はい」の返事、声を出す) ・笑顔で明るく、ポジティブな雰囲気づくり ・誉める、認める、温かい言葉のシャワーを注ぐ 等 □どのクラスもスピードとテンポの意識はあるが、まだまだ教師主導で教師が話をする時間が多い。 □チーム担任制や教科担任制により日常的な授業の情報交換は活発に行なった。	B	<教師アンケート> ◇「授業で「振り返り」まで」(1月末)3～4年:ほぼ100%、5年:70% 6年80% □「中学年、高学年とも、授業タイムマネジメントがなされている。 □「児童アンケート」 ◇「授業が楽しい」 90% 「チャイムスタートができていく」 90% ○全学級で共通した指導の事項、日頃の授業について、改善①「めあて、振り返りまで必ずやりきるタイムマネジメント力を意識する。 改善②『書く力』の育成として、「おもしろ書かせる」を徹底する。 改善③ 主体性の育成として「必ず挙手、○×、名札で表明等」の機会をもつ。 改善④ 授業の中で仕掛けを実施した。「ギミックブラッシュアップシート」の活用。 □2学期は授業研究を2回全校で実施。3学期で全職員が授業研究を行う。 □各学年1人3回ギミックブラッシュアップシートを活用し授業公開を行った。 □チーム担任制や教科担任制により日常的な授業の情報交換は定着した。	A	☆「高野小学校で大切にすること」をプレゼン資料にまとめ毎週発信した。具体的な取組とその目的について教職員で共通理解しながらフィードバックする機会となった。 併せて、学校HPを毎日更新したり、学校だよりでは学校の現状や学校全体での取組を掲載したりして、保護者や地域の理解協力のための情報発信を行った。 ☆毎週、企画チームで学年学級、児童の状況について情報共有を行った。	B
	③運動の習慣化を図り、体力の向上をめざす。 ○朝の高野タイム及び体育授業において、「リズムジャンプ」、朝運動(朝鬼ごっこ・リズムジャンプ体操等)を取り入れ、全校で運動に取り組む。 ○自分の運動量や体力に対する目標を設定し、自ら「めあて～振り返り」を必ず行う授業を重視する。	<評価指標> ・児童アンケートで「体育の授業が楽しい」 「体力がついてきている」の項目 肯定的な回答90%を目指す。	◇全校で「朝鬼ごっこ」火:1・6年、水:2・5年、木:3・4年 雨の日:3分間のダンス ◇元美作大学の津田先生を招聘し、全学年で体育にリズムジャンプを取り入れて実践 <新体力テスト> 5月実施 <運動やスポーツすることが好きか>肯定的回答 □低学年94%、 中学年88.9%、 高学年88.5% 「体育の授業は楽しい」完全肯定回答「楽しい」のみ □低学年75.3%、 中学年77.5%、 高学年51% 「新体力テストのAB段階割合」◇男子27%、女子22.2% □運動に興味は高いが、授業が楽しいと完全な肯定回答になると10%～30%程度、高学年になるにつれ下がる。	B	<岡山県学力調査結果> 11月実施 ◇4年国語65.4 (県59.9)+5.5・算数66(県64)+2 ◇5年国語49 (県57.6)-8.6・算数50.1(県60.7)-10.6 ◇6年国語65.4 (県77.2)-11.8・算数50.5 (県69.1)-18.6 (結果分析) □3年と5年は、国・算とも県平均よりも5ポイント程低く、問題数で、2～3問程、正解が少ない。基礎学力定着を □4年は、県平均と同程度。算数は、問題数で、1問程、正解が多い良好な状況。読解力に重点を置いた取組を ◇6年国語62 全国-5.7・6年算数47 全国 -16.4 (1)家庭学習(1日1時間以上)本校32.7% 全国54.6 (2)1日のゲーム(3時間以上)本校59.9% 全国49.2 (3)授業でタブレットを毎日使用。本校14.5% 全国25.3 <1学期単元テスト>3年国語80.3点 算数82.7点 4年国語87.3点 算数75点 <宿題提出率>◇2年90%、3年96.3%、 4年 93.3%、5年84.5%、6年93.3% □2～6年の宿題提出率94%と80%を超える。 家庭学習時間はいずれも30分以下の割合が多い。 <タブレット使用>◇全学年、毎日活用。 □持ち帰り・・・3年、4年、6年は週2回、5年は毎日。	C	☆来年度は、美作大学との連携事業を実施する予定である。年15回、金曜日の午後には美作大学4年生17名が来校し、3年生以上のクラスにおいて、基礎力向上の取組を行う。 教材や内容については、本校の課題を分析し、それを踏まえて設定する予定である。	
【体力向上】 (徳育) 【自己肯定感向上】 自分には良いところがあると言っている子	④全学年とも、立腰の号令で授業の開始、終了を行う。また、学年集会、全校集会等、学校全体で取り組む教育活動(栽培・運動等)を実施し、兄弟姉妹学年等の異学年での交流を意図的に仕組むことで、擁護し擁護される経験を、相手を思いやる非認知能力の育成を図る。 ○集会や活動のたびに、学年や全体で、目標に対する振り返りを行う場をもつ、また、児童一人一人が「めあて～振り返り」を必ず行う。 ○導入や教材の工夫を行い、児童がやってみよう、楽しそうという見通しのある教育活動を大切にしている。	<評価指標> 児童アンケート、 ①「自分にはよいところがある」 ②「将来の夢や目標がある」 ③「地域や社会をよそしたくたい」	(1)自分には、よいところがある。本校72.7% 全国84.4 (2)将来の夢や目標がある。本校76.3% 全国82.4 (3)地域や社会をよそしたくたい。本校87.3% 全国83.5 (結果の分析) □自己肯定感是全国よりも10%程度低い。 ◇全校による「サウマイモ」や「とうもろこし」、「野菜」等の栽培活動を実施。別室児童による学級園栽培を実施。 ◇元岡山大学 中山先生の校内研修 【非認知能力の育成】【高野小キヤラター「にじりん」】 昨年度から高野小キヤラター「にじりん」を、「やさしくする」「ねばる」「きりかえる」「おちつく」「楽しむ」「チャレンジ」「一緒にやる」の7つの「にじりん」に整理し、非認知能力の育成と関連させた授業や活動に取り組んでいる。 2学期に授業公開10月・12月 ◇1学期の残食 本校7.7% (市平均:4.67%)	B	◇全校で「朝鬼ごっこ」取組を継続 ベア学年 火:1・6年、水:2・5年、木:3・4年 (3分間鬼ごっこで20人つかまえる)雨の日:3分間のダンス ◇元美作大学の津田先生が師範授業を実施。 全学年で体育の時間の導入にリズムジャンプを取り入れて実践 3、4年生での体育の公開授業実施。 2学期、3学期もリズムジャンプ継続。 □全校でねばりを実践、チャレンジカードの活用など目標をもって挑戦する機会を設けている。 □低学年、中学年は全体的に積極的であるが、高学年はまだ全体的な広がりまでは見られない。 ■来年度は、異学年でのチャレンジなど工夫した設定が必要である	B	☆学力と同様、体力も本校の課題であることから、来年度も取り組みを継続することから、活動内容が長年に渡ると、マンネリ化している傾向もあるから、全職員で年間計画の見直しを行う。	B
			(1)自分には、よいところがある。 本校70.4% (2)将来の夢や目標を持っている。 本校76.3% (3)地域や社会をよくするために何かしたい。 本校80.3% (結果の分析) □おおむね7割の児童は自分なりに頑張っている肯定的な意見がある。先生がよくほめてくれる、認めてくれると感じている児童は8割になる。 ◇全校による「サウマイモ」や「とうもろこし」、「野菜」等の栽培活動を実施。別室児童による学級園栽培「にじりん」や「じゃがいも」等を実施。 →今年度は全校で取組、ベア学年で収穫や調理を実施できた。 ◇非認知能力の育成に関わる公開授業 → 授業公開(10月・12月・1月) ◇個人の頑張りを全校で表彰する取組 「にじりん賞」(英語、読書、あいさつ、自主学習、歌声、なわとび、など)個々の頑張りを表彰する取組	B	・開校150周年記念の学習発表会を柱に、全学年、総合的学習「たかの(つやま)郷土学」の基本カリキュラムが完成した。(例:3年:高野のお店 4年:高野の自然災害 5年:高野の米作り、マリ交流 6年:高野の歴史、平和集会 ・ほぼ毎日、地域の方が来校。地域ボランティアの充実。 年間でのべ900名の方が来校(あいさつ運動を除く) ・学校と地域との双方向での新たな交流を検討する。学校運営協議会等で熟議する。			